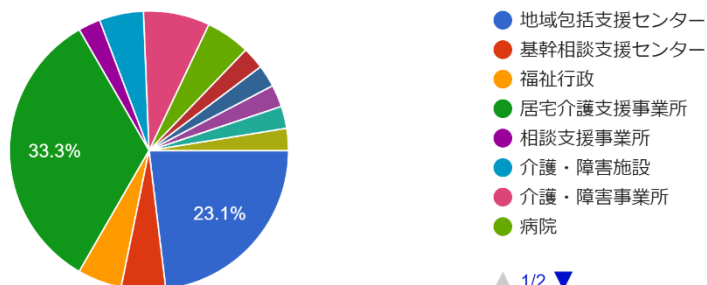


R5/6/15 開催 本人の権利から考える「本人主体の事例勉強会①」振り返り

職種

39 件の回答



今日の、事例を通して学び、思ったこと、気づいたこと。
本人との話し合いのなかで本人が迷ったり悩んだする事も含めて気持ちを聴く子の大切さをグループワークで学びました。
上から目線なんて、していないし、考えていないつもりでしたが、ひどい言葉、偉そうな言葉の中には、身近にとびかう言葉がありました。してるつもりはこわいなあと感じました。
日常業務で本人不在で議論していることが多いこと
事例から学んだことは、「本人のため」のような先回りの思考がパターンリズムを含み、本人の発達（発展、展開・・・？人間としての development）の可能性を狭めていることであると感じられた。同時にそこには、「施設（マンパワー）としての限界」のようなフレーズが検討されたことも興味深く思われた。「守られるべき」という社会規範が、本人を制限しているのではないかと、というのが父権主義であると考えられる。「施設としての限界」はもう一つのバリアであるし、温情主義との補完関係にもあるのかもしれない。自分の過去の実践を振り返ってみると、「〇〇だからできない」、というあきらめも多かったように思った。実現するための検討を考えると、「なぜできない」と考えるのか？を自分に問うようにしていきたいと思う。
つつい我々のやり方に誘導しがちになってたと反省しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通という言葉の難しさ ・ 事例一つに対しても、日々、勉強していなければわからない事 （身障・生保・障害者年金・後見制度・精神福祉手帳等） 関わって調べて自分のものにしていく。わからなかったら聞く、調べる。
使いたくない言葉を普通に使っていた
障害や疾患等で自己決定することが大変な場合は、自己決定の手助けを手厚くする（スト

ンと納得出来た感じがする)
<p>「使いたくない言葉」「えらそうな言葉」に対しては日常的に使わないように意識をしていきたいと思います。また、相談を開始する際には、先入観なくかかわっていきたいと考えています。</p> <p>「使いたくない言葉」「えらそうな言葉」を使わなくて済むようなかわりができるとうい最後の感想でありましたが『本当だな。』と思います。</p>
事例を含めて、日常の支援について言葉の使い方、伝え方、記録での表現の仕方等々、グループワークを通して振り返ることができました。
温情主義の危険性。私たちの周辺で普通に起こっていることに気付いていない人(自分も)が多いこと。
<p>まず、初めに「使いたくない言葉、失礼な言葉」で衝撃を受けました。</p> <p>ケアマネとして、一社会人として、曲がいなにも基本として「出来ている」と自負していたつもりでしたが、並べられている言葉が普通に使っていると言う事に気付きました。ここからも、自分のやっている事が「上から目線」であったのではないかと気づかされました。相手の為に良かれと思い決めてしまっている事が往々ある事に気づき、今後更に「人の話を聞く」と言う事を心して行かなくてはならないと思いました。</p>
<p>・日々の業務の中で二時間も本人を中心として考え、皆で話し合いが出来る機会はほとんどない為今回もとても学びになりました。またあまり良くない関わりを見かけたらこれはだめ、というのではなくこうすると～さんにはいいのでは？等伝えられたら、と思いました。</p>
利用者の持つ自己決定権と基本的権利やその自己実現を行うために支援者が重要な鍵を持っている立場であることを改めて意識することができた。
情報を伝え本人が選ぶ。待つことが大事。答えを急がない。自分に足りないことでした。意識していきたいと思いました。
第1回目は「やらない理由を考えるのではなく、やれる工夫を本人と一緒に考えていく」という姿勢や側方支援・後方支援の在り方について、改めて気づきをもらう研修となった。宮城県内の多岐に渡る専門職の方が参加されており、普段とは違う視点での事例勉強会で大変参考になった。
「権利擁護」「意思決定支援」繰り返し何回も聞いているが、普段、何気なく行っている事がどれだけよろしくない関わりになっていたか、という事を認識し自分自身にガッカリした。相手のためと思って考えていた事が、自分の経験や価値観に基づいた考えだったのではないか、そのために本人がやりたい事ではなく、支援者がやって欲しい事になっていたのではないか、と反省する事が多かった。
途中から急に本人が不在になってしまった。最初は髪を切ってあげた。というところに

<p>ついては、あまり大きな問題には見えなかったが、他のところを改めて考えていくうちに、本人と全く話していない事業所の方が髪を切ってあげた… 本当に大丈夫か？と思うようになった。 坊主やショートカットなど、事業所が管理しやすい髪形になったのだろうな。と感じ、心配になった。 本人主体。をみんなで統一してやっていくにはまだまだハードルが高いなと感じた。</p>
<p>本人を跳ばした関わりの分かりやすい事例でしたが、場面は違えど、私も同じように本人を跳ばしてきたと思います。「よかれと思って」「仕方ない」と、本人ではない誰かを優先してきたと思います。</p>
<p>使いたくない失礼な言葉は普段から気を付けて使わないようにしているが、事業所内の介護記録やいただく基本情報の中に見かけることがある。身体拘束のスピーチロックや心理的虐待と重なる部分もあり、使われないようにする必要がある。</p>
<p>昨年から引き続き参加させていただきます。本人の権利から考えることについて、1 から始めるつもりで参加しておりました。本人の権利を考えると、「ひどい言葉、偉そうな言葉」を自分が使われたときどうなのかをグループでも意見交換でき、それらの言葉を振り返ることができ、良い機会になった。</p>
<p>事業所の中の「当たり前」が人権を脅かす異常事態であると、改めて考えました。</p>
<p>事例を通して学ぶことで、権利擁護とはどういうことなのか実感できました。</p>
<p>支援者が先行して(良かれと思って)行ってしまうことは、本人の意向に沿ったものなのか、関係している複数の人とで、確認することが大切だと感じた。</p>
<p>「本人主体」と思いながらも、よかれと思って先回りをして支援してしまっていることは、多いと思うし、なんでもやってあげるといことは、権利侵害につながってしまうという言葉が胸にささりました。</p>
<p>事例を通して、自分が言われたらどう思うかという視点を持つことができた。指示が入らない、徘徊するなどという言葉は自分が当事者の立場だとすれば、非常に不快な言葉である。私の職場でも上記のような文言は非常によく聞く言葉でもある。 各々が、言葉に対する配慮をするだけで、ケアの質も上がると思った。</p>
<p>「～だから出来ない」ではなく 「～すれば出来る」という考えかたは、常に意識して業務にあたっています。 反面、「やりすぎない」意識が時々欠如して、本人や家族から依存される関係、パターナリズムに陥りやすい傾向があると反省もあります。「待つ事」「急ぎすぎないこと」をこれからは、尚更 意識していきたいと思います。</p>
<p>ふだん何気なく使っている言葉がご本人に対して失礼な言葉だったことを学びました。「拒否」や「暴言」などの言葉を用いずに記録するにはどうしたら良いか考えます。</p>
<p>事例：小児麻痺のある A さんのグループホームでの生活ルールについて バスでの通院や買い物・本人が希望するかかりつけ医・外出しての理容に対して、施設側</p>

<p>の都合でバスではなくタクシーに変えようとしたり・通院も一か所で済ませようしたり・床屋も職員から切ってもらっている事等、職員の都合で支援してしまっていて、本人の権利が守られていないと感じた。</p> <p>Aさんの意向を確認する事もなく、職員の都合で「Aさんは〇〇だろう」と決めつけてしまっている。あくまでも、私達は専門職であり、合理的配慮を可能な限り提供することが、専門職として求められる事だと感じた。</p> <p>また、別紙[使いたくない・失礼な言葉]では、普段何気なく使っている言葉を無意識に使っていたかもしれないので、留意し業務に取り組んでいきたい。</p>
<p>障害特性を理解し、障害=困った人ではない。</p> <p>何度となく学び理解できているはずだったが、当たり前のように使っている言葉の中に、じつは「支配的」な言葉が多くあることを改めて勉強できた。</p> <p>利用者一人一人の能力と可能性を認めることが、利用者の当たり前の権利を守ることだと理解できた。</p>
<p>本人が抱える病気や障害の理解、障がい特性がきちんと理解できて対応していくということ。もし、私が当事者となった際、理解しようと努力してくれたら良い関係性が築けていけると学びました。</p>
<p>意思決定支援とどんな事例検討の仕方があるのか興味があり受講しました。いろんな職種で仕事をされている方の意見が聞けて良かったです。言われたらいやな言葉については、とてもよく聞く言葉なのにそのままにしてしまっているところも反省しました。同じグループの方では職場で意見を出し合って言わないようになったとの話もあり、素晴らしい取り組みだなと感じました。</p>
<p>私が求めていた世界がここにあったと思いました。</p> <p>本業はマッサージ師です。重度訪問の現場で家族や患者に我慢をさせる事業者、居宅を病室にする医療者を見て、2年前に訪問介護事業所を立ち上げました。</p> <p>実際は百戦錬磨のヘルパーさんになめられ、事例以上の症例で、3月に10人中7人のスタッフに去って頂きました。その人達は事業所を立ち上げて今、活発に売り込んでいます。</p> <p>今回学んだ支援の基本の実践は、宗教レベルでの人間性開拓なしでは実現不可と感じました。</p>
<p>これまでの知識と経験と関わりを踏まえた上で、さらに学んでいくことが必要であること。自分の役割を整理するための方向性のようなものが見えた気がした。</p>
<p>・ひどい言葉、偉そうな言葉の具体例を見て、本当にそうだなと思うし、何気なく使っている自分もいることも事実です。常に自分が言われたらどう思うか、できることを本人と一緒に考えていくように、意識していきたいと思います。</p>
<p>普段職場で、相談者本人を尊重しない態度や考え方が横行しており、納得いかない思いを</p>

一人で抱えていました。今回初めてこの会に参加させていただき、自分が感じていたことはごく当然のことだったのだと思えて、すごくスッキリとしました。それと同時に、社会福祉士として自分は、本人を尊重することや本人を主体に考えるということ、自信をもって積極的に表明していかなければいけないと強く感じました。今後学びを重ねながら、それができるように自分を鍛えていきたいと思いました。

「使いたくない言葉 失礼な言葉」普段何気なく使っていたことにどきっとさせられました。事業所に連絡する際、簡潔に解りやすく伝えるために、普通に使ってしまうことが怖いと思いました。Kさんの事例から、本人の希望やどうしたいのかが見えてこない。関わる側で勝手に、都合よく判断し決めている事が当たり前であってはならないと感じました。

当事者(利用者さん)の関わりや支援において「利用者さんの最善の利益」を考えて支援にあたることを振り返りになりました。支援者が利用者さんを見ずに思いこみで合理的配慮をする怖さがあることも気づかされました。

利用者の当たり前と支援者の当たり前や対人援助の関係性について資料を見直しながらい見意見交換をした。考え方の指針となる資料を見ながらの意見交換でした。何度も繰り返し見ている資料で、分かっているつもりだがまだまだ理解が不十分であることを実感しました。

その他、思ったこと、感じたことなど。

事例を元に振り返る事やいろいろな立場のかたの意見を聞く事が出来て勉強になりました。

病気のことを勉強すると、それがその方の過小評価につながることもあり、能力を奪ってしまうことも。また、先回りしたり、待てずに、～ですかね？とこちらから言葉をつなげたりします。焦らず待たないとですね。

また、今日のグループで、本人様が理解できるように、誘導するのではない提案でない、より良い選択ができないですよ？とお話しがあり、本当にその通りで、いろいろ考えることができました。ありがとうございました。

二時間があったという間に終わり、とても元気な事例検討会でした。真似たいと思うところがたくさんありました。(1) 事例検討を始める前に、しっかりと方向性を話して下さったことがよかったです。事例に対して自分ならどうするか、そして、事例から学べることは何か、という二つの提示がわかりやすかったです。(2) ポジティブな理論に対して、ネガティブな考えを持つことが面白い、という表現は、思考を広げる練習になりました。そして、意見の多様性を含むことにもなり、いつもよりも、他者が考えていることを聞き取れたように感じられました。発言のしやすさにもつながっていたように思います。(3)

<p>参加者のみなさんの意識が前向きなことも、元気になりました。</p>
<p>在宅でも施設でも医療の方の発言は強く、本人のためなのかと悩む時があります。</p>
<p>最後の15グループの高橋さんの発表の中で、使いたくない失礼な言葉に変わる言葉って何だろう？→いわないこと！！</p> <p>自分もグループワークの中で反対語って何だろう？ってずっと思っていました。</p> <p>ほんと、使わなければよい話で、スッキリしましたが、使わないことに慣れるように果たしてできるか？</p> <p>何気なく、つい、使っていてそれが失礼な言葉ということに気づいて反省できれば使わなくなれるような気がします、今まで気づかないで使っていた自分にびっくり！</p> <p>反省しきれない勉強会でした</p>
<p>リベートやそれぞれの立場に立ったシミュレーションでの事例検討会を実際に企画してみたいと思った。</p>
<p>支援する側は、長年の経験等で自己解釈したり、合理的に支援をしておもうとすることがままあり、さらに考えを押しつける、コントロールしていることがあると思う。出来ることまでしてしまい支援者が勝手に自己満足するということは大変愚かなことです、でもしてしまいがちです。支援を受ける側の権利や可能性、能力について考えながら支援をする大切さを感じました。</p>
<p>「知る」ことから活用することまで、展開することができると、仕事の愉しみも増えると感じます。人が相手なので、日々、自身のメンテナンスをしながら人とかかわっていきたくと思います。</p>
<p>ご利用者の皆様が、尊厳を守られながら あたりまえの日常が過ごせるよう今後も研鑽していきたくと思います。</p>
<p>自分ごととして捉える、自分がそうされてどう思うか。出来ない理由ばかりでなくできることを本人と一緒に考える。難しいことではなく、支援者が考え方を変えるだけでいいんだと思いました。</p>
<p>研修ありがとうございました。</p> <p>9回の研修を全部制覇し「本人主体」と言う基本的な考え方を徹底的に身に叩き込みたいと思っています。頑張ります！</p>
<p>・小湊さんの講義を聞いていると、自分も心身の障がいや病気などで生活が大変になっても優しくしてもらえ、自分の話を聞いてもらえて一緒に考えてもらえるんだな、と思いました。上からの目線で指示されたり、勝手に決めつけられて周りに話されたりしないことの安心感や重要性を改めて思いました。</p>
<p>G・Hに勤務し半年を経過し、仕事上の悩みや不安等が抱えたまま働いていることに疑問を</p>

<p>持つようになった時期なので、色々な立場の方々の話を聞き、一つの立ち位置をしっかりと確立していくことの重要性を認識しました。</p>
<p>毎月振り返れる時間があるので、自分の課題を立てやすいです。人の意見がとても参考になります。気づきが得られます。</p>
<p>所属や職種の違う参加者と、普段の関わりについての思いや支援での失敗談などを共有でき、とても有意義で楽しい研修だった。</p>
<p>失礼だったり、上下関係が見える、支援側が主体化のような…などの言動も、注意しておかないと自分もうっかり使用してしまいそうに感じる部分もあった。ただ、そのことをおかしい。と感じずに支援している専門職が多いことも日々実感しているが、みんなで改めて考えなおすときに、共通の理念、指針などがあることがとても力強いと感じた。</p>
<p>意識の高い方々と学ぶことはとても刺激になります。 このような機会にインプットしたことを、自身と事業所と法人に還元したいと思います。職員に見せたところ、特に「使いたくない失礼なことば」と「Kさんの事例」が分かりやすく、響いたようでした。</p>
<p>クライアントの意思決定支援には待つこと、急がないことが大事であることを改めて考えることが出来た。</p>
<p>仕事をしていると「何かへんだな」と思うことはよく遭遇するが、自分の意見では何も動かないと思い、スルーしていた気がする。「変だ」と言えるようになれるよう根拠となることを得られるよう1年間学んでいきたいと感じた。</p>
<p>いろいろな人の意見を聞けることで、自分を振り返ることができると感じております。振り返る機会を持つことは、とても大事なことだと思いました。1年間どうぞよろしく願いします。</p>
<p>ごく普通の当たり前の生活を送ることができているか。モニタリングで見慣れた光景が、果たしてごく普通の当たり前の生活なのか、改めて問い直していきたいと感じた。権利を守るということは、専門知識以前の問題であることから、一つひとつ見つめなおしていく必要があると感じた。</p>
<p>今年も参加させていただきありがとうございます。リモートでの参加なので、仕事が終わってぎりぎりになっても、参加しようという気持ちになります。 今年一年よろしく願いいたします。</p>
<p>グループワークでは、自分にはない視点に気付かされ、非常に良い機会であると感じた。自分の当たり前が他の人にとっては当たり前でないということを意識して仕事をしていきたい。</p>
<p>「使いたくない、失礼な言葉」について 全てではないが、「徘徊」「暴言」など、業務の中で使いがちでした。相手に対して「上から目線」といったつもりはなく、業務用語的に無意</p>

<p>識に使っていたと思います。「使いたくない、失礼な言葉」は、単なる言葉の変換ではなく、相手に対する姿勢だと思います。「徘徊」「暴言」の 普通の言い方……考えてみたいと思います。</p>
<p>最近思ったのですが「自分がされたらどういう気持ちができるんだろう」とは、自分が高齢者や認知症になったら、という意味ではなく「今の自分がされたら」と考えることが「当たり前前の生活」を送るための支援なんじゃないかと。そう考えたら本人主体ということが少し理解できた気がします。</p>
<p>常日頃の利用者との関りの中で、勝手な思い込みによる「支配的」な態度が当たり前のようにになっている現場を時々目にしている。「相談支援・介護支援の基本」についての勉強会を多職種に向けて開催したいと思う。</p>
<p>日頃、何とかしてあげたい、何とかしないといけないと、支援者中心の話し合いになりがちです。少し待ってみよう、何か話をしてくれるかもしれないね。相談支援の基本（ケアの原則）と基本的な態度をもって、普通に生活することに限りなく近づけられるかかわり方を学んでいこうと思いました。</p>
<p>オンラインということで、とても気軽に参加できました。業務外の時間に自分の時間を削ってまで参加される方の意識の高さに驚いたと共に、気持ちが引き締まりました。</p>
<p>事業所での事例を通して勉強会を行いたいと思いました。</p>
<p>この勉強会前に受講したオンライン研修の講師がろう者だったためにパソコンの音声を消したままにしていた。そのため今回の勉強会開始時に意図せず聴覚障害体験が出来た。</p>
<p>グループワークに慣れていない方も多いのでしょうか。グループワークはあまりスムーズではなく、内容があまり深まらなかったように感じました。</p>
<p>一緒に考えてみたいと思い、事業所内の勉強会に活用させて頂きました。自分が発する言葉だったり記録する際、言葉を意識して使っていきたいと思いました。他事業所の誰か一人だけでも伝わってもらえたら、そこから少しずつ広がっていけたら嬉しいと思います。指摘するのではなく自分から少しずつ発信出来たらと思い身近な言葉から振り返っていきたいと思います。</p>
<p>グループワークで様々な職種の方と意見を交わし共有できたことが一助となりました。実は、先週、所内会議で今回の勉強会について話をさせていただきました。事業所内でも自分たち個々の振り返りにもなりました。次回もよろしくお願いします。</p>